

## 組織目標評価報告書(2019年度)

6-2

部局名: 医学部保健学科

部局長名: 中塚 幹也

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>1. 入試関連</p> <p>①アドミッションポリシーに合致する優秀な学生確保のため、3年次編入学試験等の入試方法のあり方について検討する。</p> <p>②グローバル化の一環として国際バカロレア入試の定員充足、志願率の向上を図る。</p> <p>③国内外からの受験生、留学生を増やすために、SNSなども利用した保健学科の広報を検討する。</p> <p>2. 教育の内容・実施体制</p> <p>①大学院授業の提供拡大について検討する。</p> <p>②チーム医療教育の視点で、医学科学生との連携教育について検討する。</p> <p>③ラーニングコモンズの充実、アクティブ・ラーニングの拡大を推進する。</p> <p>④4学期制の中で留学する学生への配慮を検討するとともに、留学生増加を目指し、L-caf 6、Shikataの利用を促進する。</p> <p>3. 教育の成果の評価</p> <p>①臨床実習、臨地実習の前後にOSCE(Objective Structured Clinical Examination)を推進するとともに、実施後の効果の評価方法について検討する。</p> <p>②臨床実習前のWBT(Web Based Testing)、CBTの実施を継続するとともに、国家試験合格者の高水準維持を目的として、WBT、CBTの利用を拡大する。</p> <p>③外部評価委員会を設置することにより、教育、研究、社会貢献に対する活動の評価を受けるとともに、改善点を踏まえた目標設定につなげるシステムを構築する。</p>	<p>2② 【2-1】 3③ 【3-1】 5① 6② 【6-1】 8④ 14① 【14-2】 25② 【25-3】 85①</p> <p>1. 入試関連</p> <p>①受験者数が減少、学力等がアドミッションポリシーの水準に達しないデータを示し、文部科学省と協議、2021年度入学生を対象とした3年次編入学試験の廃止が承認された。</p> <p>②オープンキャンパスにおいて、国際バカロレア入試に関する動議・説明用ブースを開設し、個別に説明を行った。</p> <p>③教員や大学院生の学会、競技大会等での受賞の情報を収集、ホームページ上で発信するシステムを作り開始した。研究科長からインスタグラム、フェイスブックで発信するためのアカウントを開設した。広報委員会の活動の実質化のため、入試委員会、教務委員会、学生生活委員会を含めた4委員会の合同会議を2回開催した。</p> <p>2. 教育の内容・実施体制</p> <p>①博士前期課程のリプロダクティブ・ヘルズ特論、リプロダクティブ・ヘルズ演習など5科目において、社会人(リカレントプログラム受講生)に提供し、一部を学部生にも提供した。</p> <p>②保健学科と医学科の教務委員会において、各学科の学生が共通で受講可能な科目を検討した。</p> <p>③保健学科棟1階、2階ロビーにグループワークや自習ができる学習スペースを作った。保健学科棟2階のラーニングコモンズ(リプロカフェ)に助産師リカレント教育プログラムの受講料等で図書やDVDを購入、プログラム独自の教育・啓発コンテンツを作成し一般公開した。</p> <p>④チーム医療演習の授業の海外班6班の50名の学生が、中国、韓国、台湾の各大学で交流・学習を行った。保健学科海外アンバサダー制度を導入、韓国へ2名の学生を追加派遣した。タイのシーマハサラカム看護大学への短期派遣プログラムを実施(学生5名)、助成金(さくらサイエンス)を獲得、タイのシーマハサラカム看護大学からの留学生を受入れた。</p> <p>3. 教育の成果の評価</p> <p>①成人看護学実習において、大学病院での実習前にOSCEを実施、全国の国公立大学、私立大学における看護学教育におけるOSCE実施に関する情報収集を行い、実施後の効果の評価方法について検討した。放射線技術科学専攻の臨床技能演習にて、アノテーションシステムを用いてOSCEを実施、相互評価を実施した。</p> <p>②試験問題を改訂するとともに3専攻ともにWBTを実施、学生への指導データとして活用した。看護学専攻は、全国的に数少ない実施校であり、国立大学の看護師養成課程での標準化に意見を求められている。放射線技術科学専攻では国家試験対策として国立大学の診療放射線師養成校で構築したe-learningシステムも利用した。</p> <p>③規約を作成し、各分野・専攻の知識と経験のある外部有識者を収集し、外部評価委員会を開催した。外部評価委員会を検討し、その回答を報告書として作成し周知、改善を行った。</p>
<b>②研究領域</b>	<b>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>・保健学科の研究領域については、保健学研究科にまとめて記した。</p>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>・国際化促進のため、国際交流関係WGで議論し、海外の教育機関、医療・保健機関との相互交流を推進する。</p> <p>・「保健学研究科オープンフォーラム」を開催し、保健学科、保健学研究科における教育、研究について広報するとともに、高校生、大学生、地域の企業や市民からのニーズを把握する。</p> <p>・高校生を対象としている「保健学科長と語る会」を継続するとともに、対象の拡大を検討する。</p> <p>・同窓会や卒業生と学部生との交流拡大に向けての方法を検討する。</p> <p>・多様性を認め合うダイバーシティ教育の視点でボランティア活動を促進する。</p>	<p>49②</p> <p>タイのシーマハサラカム看護大学から学生6名、教員2名が来日、学部生5名、教員2名がタイのシーマハサラカム看護大学を訪問した。台湾の長庚大学と、学生交流のための附属文書を交わし協定を締結した。</p> <p>・保健学研究科オープンフォーラムを開催し、保健学科・保健学研究科におけるSDGsに関する研究・活動などについて発表した。また、高校生、大学生、市民などの参加者にアンケート調査を行い、保健学科・保健学研究科やオープンフォーラムへのニーズを把握した。</p> <p>・「学科長・保健学科長と語る会」とし、受験生確保のため中学生にも、大学院への進学促進のため大学生にも対象を広げた。3専攻の学生とランチミーティングで情報交換を行った。</p> <p>・保健学研究科オープンフォーラムにおいて、保健学科・保健学研究科の歴史に関するポスター展示を行うとともに同窓の情報を発信した。また、外部評価委員会を設置し検討した。</p> <p>・ポケットサポートなどのNPO団体、岡山県学生献血推進連盟、岡山県赤十字血液センターなどからの訪問・要請を受け会談した。ボランティア活動に関する掲示板を設置し、疾患を持つ子どもへの支援のためのボランティア養成講座など、講演会などの広報を行った。学生が安全にボランティアを行うことができ、また、それを推進するための規約を制定し顕彰制度を開始した。</p>
<b>④管理運営領域</b>	<b>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>・保健学科の管理運営領域については、保健学研究科にまとめて記した。</p>	